



研究部会報告

(その2)

●OR/MSとシステム・マネジメント●

●第31回

日時：昭和62年12月12日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室 出席者：20名

テーマと講師：OR/MSの実施理論と組織知能 松田武彦(産業能率大学)

組織知能は、組織の問題解決能力であり、人間知能と機械知能の交絡集積体からなる。組織知能高度化の視点から、マネジメント諸技術(IE/QC/VE/OR/SEなど)の再評価や、情報技術(EDP/MIS/DSS/KEなど)の組織内での位置づけを行なう必要がある。組織知能による分析・設計ツールの開発は、OR実施を支援するという講演があった。

なお、研究会終了後、忘年会を行なった。

●第32回

日時：昭和63年1月16日(土) 13:30~16:30

場所：同上 出席者：12名

テーマ：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 20.

講師：井上一郎(日本電気C&C情報研究所)

文献講読を行なった。

●第33回

日時：昭和63年2月13日(土) 13:30~16:30

場所：同上 出席者：12名

テーマ：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 19, 21.

講師：梅原英一(野村総合研究所) 堀内正博(新潟大学)

文献講読を行なった。

●第34回

日時：昭和63年3月12日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学百年記念館第1会議室 出席者：19名

テーマと講師：組織知能工学をめざして 太田敏澄(豊橋技術科学大学)

組織知能工学的なアプローチとして、組織内部に見いだされる行動のモデルを試み、自己生成的連鎖モデルの構築を行なった。組織知能を解明するため、自己生成シ

ステムと他者生成的システムを対置し、組織を自己生成的システムとして特徴づける行動-反応の連鎖を、意見調査結果にもとづいて抽出したという講演があった。

●第35回

日時：昭和63年4月16日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室 出席者：15名

テーマ：文献講読 Galbraith, J. R., "Organization Design", Chap. 22 講師：松本康男(三和総合研究所) 文献講読を行なった。

●第36回

日時：昭和63年5月14日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学百年記念館第1会議室 出席者：24名

テーマと講師：GDSS(集団意思決定支援システムについて) 山田善靖(東京理科大学)

GDSSは、集団での問題解決を支援することをめざしたコンピュータ・ベースのシステムであり、従来のDSS要素に加えてコミュニケーション支援機能をもつ。GDSSは仕事志向型のコミュニケーションを促進するので、電子コーヒープレイクといったシステム設計上の配慮をすることなどを通じて、拡散的思考を支援することができ、組織知能高度化に貢献するシステムとして活用できるという講演があった。

●第37回

日時：昭和63年6月11日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室 出席者：19名

テーマと講師：組織認知と組織のもつモデル 平野雅章(早稲田大学)

1つの絵が2通りに見えたり、1つの形が文脈に依存して異なるものに見えたり、文脈が図によって規定されたりする。モデルによって事態の解釈が異なり、問題(従って解決策)が異なる。環境変化を前提としたモデルと認知に関して、個人や組織は、どのようにモデルを交換するのか、どのように異なるモデル間を調整するのかという問題について、論理実証主義、組織論などの議論を例として取りあげ検討した結果について講演があった。

●第38回

日時：昭和63年7月15日(金)~17日(日)合宿

場所：大橋会館 参加者：24名

テーマ：組織知能工学の研究課題(1)

組織知能の優れた研究課題を形成するため、組織認知、

組織記憶、組織学習、組織推論の各視点および全体的視点からそれぞれ宿泊による討議を行ない、今後取り組むべき課題を整理した。各視点での討論の結果を深めて、TIMS大阪での発表をめざすこととした。

●システム・シミュレーション●

●第6回

日時：1月21日(土) 14:00~17:10 出席者：22名

場所：㈱構造計画研究所

テーマと講師：1)「シミュレーションを用いたシステム事例：①適正仕掛量の評価、②適正作業人数の設定」柳田順子氏(日本電気㈱、生産システム開発本部)

2)「1988 Winter Simulation Conferenceに参加して」森戸晋氏(早稲田大学、工業経営学科)

内容：1)日本電気㈱で行なわれた離散型シミュレーションの実験例2件、すなわち、1)設備故障が想定される状況において目標生産量を達成するためにもつべき仕掛在庫量の評価のシミュレーション、と、2)設備の保守要員の適正配分のためのシミュレーションが説明された。

2)1988年12月にSan Diegoで開催された'88 Winter Simulation Conferenceに関して、参加者、プログラムの構成、セッションの内容、展示等の概要が報告された。また、近い将来開催されるシミュレーション関係の集会等の情報が提供された。

●最適化とその周辺●

●第17回

日時：1月26日(木) 14:00~17:00 出席者：19名

場所：京大会館 217号室

テーマと講師：1)ポートフォリオ運用の理論と実際 甲斐良隆(三菱信託銀行)ポートフォリオ運用における基本的な事柄と数理計画によるアプローチについて解説された。2)組合せ最適化問題とヒューリスティック解法 仲川勇二(岡山理科大学)非線形ナップザック問題に対するグリーディ法とそれが効率的に適用可能であるための条件について報告された。

●情報ネットワーク●

●第11回

日時：2月4日 14:00~17:10 出席者：10名

場所：東京工業大学経営工科学会議室

テーマと講師：情報ネットワークの失敗 田中健次(茨城大学)

まず、情報システムの失敗とはなにか、なぜ失敗するのか、というところから始めて、どのように失敗に対処すべきかという点について検討した。そのさい、適応保

守という概念を提出して失敗を技術的な問題ではなく、管理の問題として位置づけた。最後に、良性の小さい失敗による悪性の大きい失敗をしないシステムの実現をめざす方法論を提示した。これは、単に設計のみならず、運用・保守を含めたシステムライフに関する方法論であると主張した。

●経営管理システム●

●第10回

日時：1月7日(土) 14:00~17:00 出席者：10名

場所：中央区八丁堀 東京都勤労福祉会館

テーマと講師：軍事戦略に学ぶ経営戦略 佐藤永充(M&M戦略研究所 理事長)

軍事戦略の大部分は経営戦略に応用可能である。日本の統帥綱領・統帥参考・軍人勅諭・作戦要務令等旧軍によって作られたものは現在でも十分参考になる。ただしこれはあくまで原理・原則的なものであるから、経営のオペレーションに用いる時は「知行合一」になり効果をあげるように慎重で賢明な考慮をもって臨むべきである。

●第11回

日時：2月4日(土) 14:00~17:00 出席者：9名

場所：中央区八丁堀 東京都勤労福祉会館

テーマと講師：近江商人の経営~現代経営の中に生きる近江商法~ 井上準一(経営コンサルタント)

近江商人は鎌倉時代から現在日本の有数の大企業に綿々と継承されております。その企業形態は古くから①情報ネットワーク②信用の尊重③リーダーシップ④権限の委譲⑤会計システム等において現代と同じようにきわめて進歩したものがあつて学ぶにたるものがあつております。

●最適化とその応用●

●第23回

日時：昭和63年11月21日 14:00~17:00 出席者：12名

場所：九州大学経済学部4階演習室

テーマと講師：(1)「CSP(古典的秘書問題)の最近の話題」坂口実(大阪大学基礎工学部)CSPに関するmulti-person, multi-lateral問題などの最近の成果とその拡張について定理とその証明がなされた。

(2)「非線形時系列モデルの推定理論」中村博和(九州大学経済学部)双線形時系列モデルのパラメータ推定方法としてYule-Walker式を用いる方法が提案され推定理論の証明がなされた。